記事のタイトルをクリックすると、当該記事のホームページに遷移します。※ページがない場合は、遷移しません。

Nerima ねりま 区報

3/11 令和8年(2026年)

第2109号 毎月1日・11日・21日発行

発行/練馬区 編集/広聴広報課
〒176-8501 豊玉北6-12-1
☎03-3993-1111(代表)
FAX 03-3993-1194
https://www.city.nerima.tokyo.jp/

3/22(日) 8:00
光が丘公園スタート

練馬こぶしハーフマラソン2026

※雨天決行。
※ランナーの募集は終了しました。

ねりまみどりフェスタ同日開催！
詳しくは2・3面へ

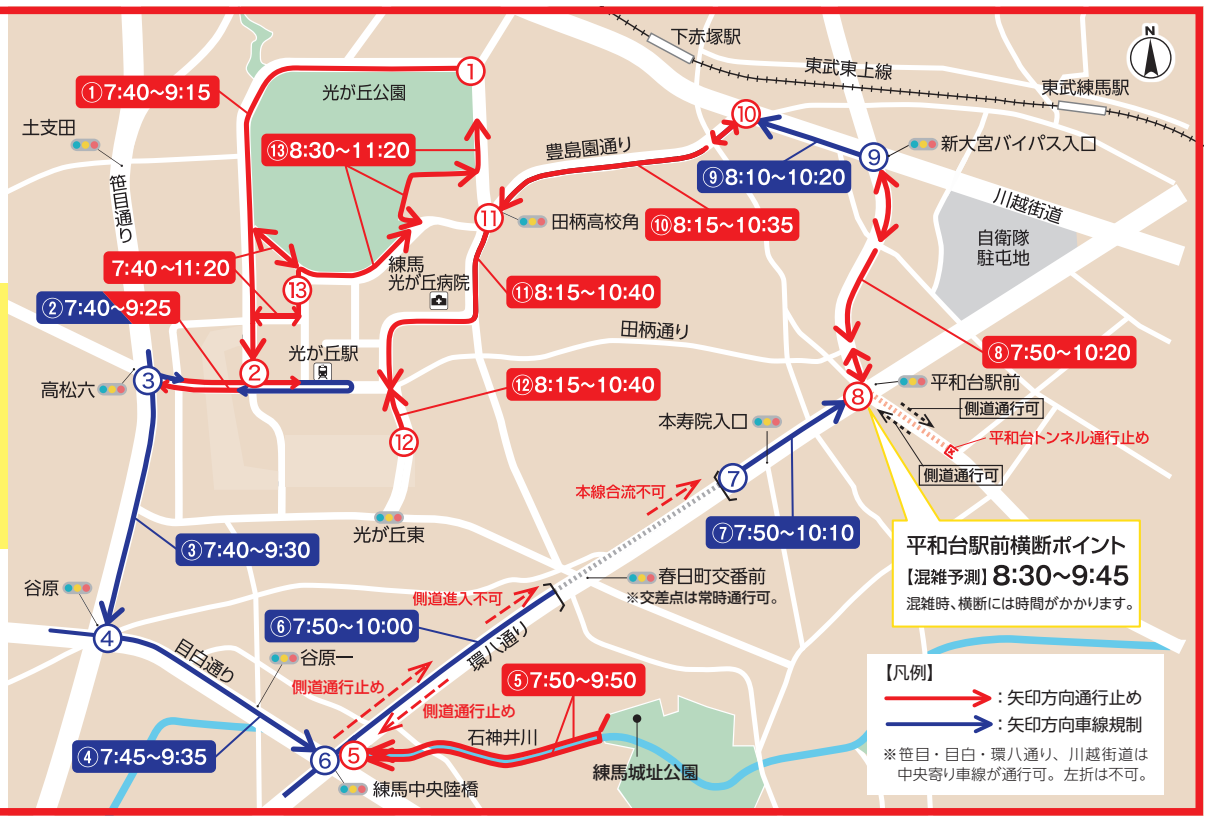
問合せ 練馬こぶしハーフマラソン実行委員会事務局(シティマラソン係)☎5984-3555 FAX 5984-1228

交通規制にご協力を

3/22(日)
7:40～11:20

迂回(うかい)経路や横断ポイント、バス運休情報など詳しくは、大会HPをご覧ください。

※光が丘公園外周道路と光が丘駅前大通りは、大会前日午後7時から交通規制の解除まで、駐車禁止となります。



5階の窓から

多くの区民の皆様から、この12年間で「区政が変わった」「区役所が変わった」という声を頂いています。区OBからも同じ言葉を聞きました。こんなに嬉しい事はありません。

私は55年間、公務員として、仕事だけに打ち込む日々を送ってきました。住民全体の為に働く公務員であることを誇りにして、常に現状改革を目指しました。政策の立案に骨身を削り、政治の渦中で苦闘し、実務の現場で脂汗をかきました。文字通り命懸けの永い歳月でした。

私だけではありません。日本の公務員たる者、程度の違いこそあれ、多くが同じ志を胸に働いていると思います。それを支えているのは何か。永い日本の歴史、特に鎌倉、室町、江戸、明治から昭和と培ってきた、「公」の精神、スピリットではないでしょうか。我々は、目先の報酬の為ではなく、もっと崇高なものの為に働いている。そう信じているのです。

私は青年の日、平家物語を愛読し暗唱していました。「木曽の最期」に曰く、「弓矢取りは、年頃日頃如何なる高名候へども、最期の時に不覚しぬれば、永き瑕にて候なり」。私も後進に道を譲るべき時が来たと自ら決断しました。

去年の11月、満八十歳になりました。信じられぬ思いでした。実感がないのです。仕事に支障はなく、元気に走ることも出来る！難と言えば、階段の下りが苦手になったくらいでしょうか。

ただここで思いがけなくも、若い日に読んだ、江戸の「葉隠」の一節が蘇ってきました。「六十に及ぶ人の老耄(ろうもう)せぬはなし。せぬと思ふところがはや老耄なり」。至言です。人は皆、自分だけは「老耄」していないと思うのですね。成る程そうか、せぬと思うところが老耄なのか。身につまされました。

練馬区長 前川燿男